nikko am
Nikko Asset Management

日興・GS 世界ソブリン・ファンド（毎月分配型）

運用報告書（全体版）

第147期（決算日　2015年８月17日）　第149期（決算日　2015年10月15日）　第151期（決算日　2015年12月15日）
第148期（決算日　2015年９月15日）　第150期（決算日　2015年11月16日）　第152期（決算日　2016年１月15日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申しあげます。
「日興・ＧＳ 世界ソブリン・ファンド（毎月分配型）」は、2016年１月15日に第152期の決算を行ないましたので、第147期から第152期の運用状況をまとめてご報告申しあげます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申しあげます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2003年３月28日から原則無期限です。
運用方針	投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	「日興・ＧＳ 世界ソブリン・ベビーファンド」受益証券 「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託の受益証券を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託の受益証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。 外貨建資産への直接投資は行ないません。
分配方針	毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

<952346>

日興アセットマネジメント株式会社
東京都港区赤坂九丁目７番１号
http://www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先
コールセンター　電話番号：0120-25-1404
午前９時～午後５時　土、日、祝・休日は除きます。
●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

Contents

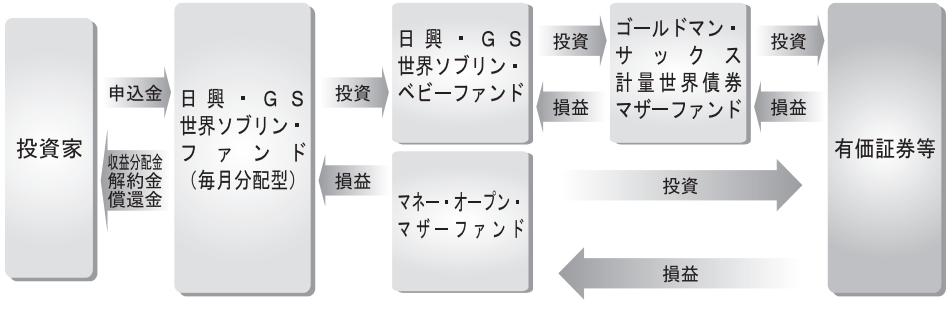
日興・ＧＳ 世界ソブリン・ファンド（毎月分配型）……1

（ご参考）投資対象先の直近の内容

◆日興・ＧＳ 世界ソブリン・ベビーファンド ……15

◆マネー・オープン・マザーファンド ……40

ファンド概要



当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ※で運用を行ないます。
※ファンド・オブ・ファンズとは、複数の投資信託を組み合わせ、一つのファンドとみなした投資信託のことをいいます。

日興アセットマネジメントでは、本資料の他に当ファンドに関する情報等を別途開示している場合がございます。
詳しくは、当社ホームページ（http://www.nikkoam.com/）またはお取引先の窓口までお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】
・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近30期の運用実績

決算期	基準価額			シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）		債券組入比率	投資信託証券組入比率	純資産総額
	（分配落）	税込み分配金	期中騰落率	（参考指数）	期中騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
123期（2013年8月15日）	7,446	40	△1.7	148.79	△1.1	0.3	99.4	11,403
124期（2013年9月17日）	7,456	40	0.7	149.96	0.8	0.3	99.4	11,314
125期（2013年10月15日）	7,488	40	1.0	151.67	1.1	0.3	99.4	11,303
126期（2013年11月15日）	7,640	40	2.6	154.77	2.0	0.3	99.4	11,443
127期（2013年12月16日）	7,885	40	3.7	160.80	3.9	0.3	99.4	11,486
128期（2014年1月15日）	7,880	40	0.4	161.93	0.7	0.3	99.4	11,233
129期（2014年2月17日）	7,669	40	△2.2	160.86	△0.7	0.3	99.4	10,814
130期（2014年3月17日）	7,699	40	0.9	162.76	1.2	0.2	99.4	10,753
131期（2014年4月15日）	7,747	40	1.1	163.91	0.7	0.2	99.4	10,628
132期（2014年5月15日）	7,755	40	0.6	164.91	0.6	0.3	99.4	10,573
133期（2014年6月16日）	7,685	40	△0.4	164.73	△0.1	0.3	99.4	10,282
134期（2014年7月15日）	7,686	40	0.5	165.62	0.5	0.1	98.3	10,175
135期（2014年8月15日）	7,670	40	0.3	167.28	1.0	0.1	98.3	10,085
136期（2014年9月16日）	7,831	40	2.6	171.47	2.5	0.1	98.3	9,810
137期（2014年10月15日）	7,803	40	0.2	172.01	0.3	0.1	98.3	9,649
138期（2014年11月17日）	8,361	40	7.7	185.34	7.7	0.1	98.3	10,210
139期（2014年12月15日）	8,541	40	2.6	190.59	2.8	0.2	98.3	10,327
140期（2015年1月15日）	8,400	40	△1.2	185.97	△2.4	0.2	98.3	10,118
141期（2015年2月16日）	8,192	40	△2.0	186.14	0.1	0.2	98.3	9,833
142期（2015年3月16日）	8,104	40	△0.6	183.70	△1.3	0.2	98.3	9,675
143期（2015年4月15日）	8,040	40	△0.3	183.66	△0.0	0.2	98.3	9,536
144期（2015年5月15日）	7,971	40	△0.4	184.84	0.6	0.2	98.3	9,344
145期（2015年6月15日）	8,043	40	1.4	187.93	1.7	0.2	98.3	9,377
146期（2015年7月15日）	7,982	40	△0.3	186.20	△0.9	0.2	98.3	9,236
147期（2015年8月17日）	8,174	40	2.9	191.00	2.6	0.2	98.3	9,299
148期（2015年9月15日）	7,998	40	△1.7	185.13	△3.1	0.2	98.3	9,053
149期（2015年10月15日）	7,937	40	△0.3	187.08	1.1	0.1	98.3	8,945
150期（2015年11月16日）	7,817	40	△1.0	185.47	△0.9	0.1	98.3	8,677
151期（2015年12月15日）	7,759	40	△0.2	184.86	△0.3	0.1	98.3	8,543
152期（2016年1月15日）	7,547	40	△2.2	179.28	△3.0	0.1	98.3	8,251

（注）基準価額の騰落率は分配金込み。
（注）当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。
（注）「シティ世界国債インデックス（除く日本）」は、「シティグループ・グローバル・マーケッツ・インク」が開発した、日本を除く世界の主要国の国債市場の合成パフォーマンスを表す指数です。同指数の（ヘッジなし・円ベース）とは、現地通貨ベースの指数をヘッジを行なわずに円換算したものです。なお、設定時を100として2016年1月15日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

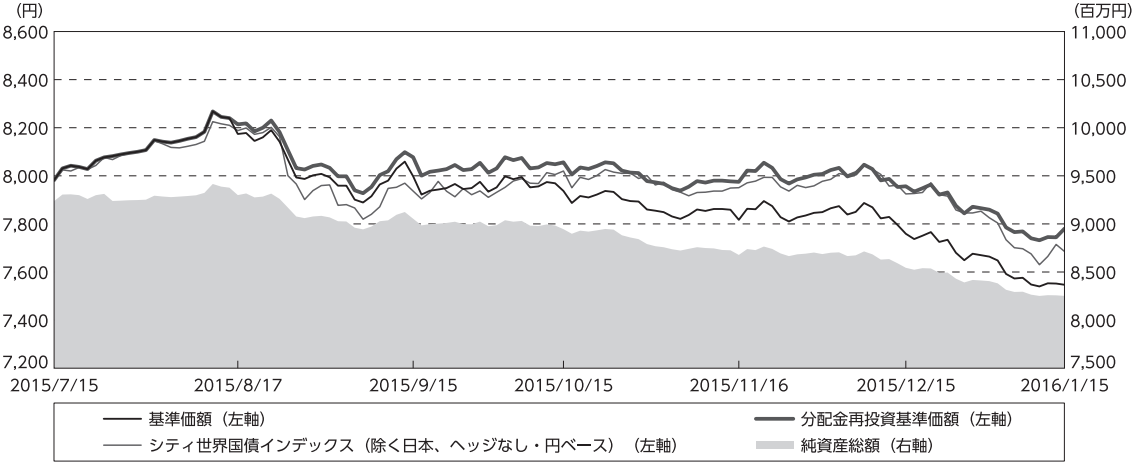
決算期	年月日	基準価額		シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)		債券組入比率	投資信託証券組入比率
			騰落率	(参考指数)	騰落率		
	(期首)	円	%		%	%	%
	2015年７月15日	7,982	－	186.20	－	0.2	98.3
第147期	７月末	8,107	1.6	189.16	1.6	0.2	98.3
	(期末)						
	2015年８月17日	8,214	2.9	191.00	2.6	0.2	98.3
	(期首)						
	2015年８月17日	8,174	－	191.00	－	0.2	98.3
第148期	８月末	8,008	△2.0	185.67	△2.8	0.2	98.3
	(期末)						
	2015年９月15日	8,038	△1.7	185.13	△3.1	0.2	98.3
	(期首)						
	2015年９月15日	7,998	－	185.13	－	0.2	98.3
第149期	９月末	7,975	△0.3	185.16	0.0	0.1	98.3
	(期末)						
	2015年10月15日	7,977	△0.3	187.08	1.1	0.1	98.3
	(期首)						
	2015年10月15日	7,937	－	187.08	－	0.1	98.3
第150期	10月末	7,855	△1.0	185.73	△0.7	0.1	98.3
	(期末)						
	2015年11月16日	7,857	△1.0	185.47	△0.9	0.1	98.3
	(期首)						
	2015年11月16日	7,817	－	185.47	－	0.1	98.3
第151期	11月末	7,846	0.4	185.64	0.1	0.1	98.3
	(期末)						
	2015年12月15日	7,799	△0.2	184.86	△0.3	0.1	98.3
	(期首)						
	2015年12月15日	7,759	－	184.86	－	0.1	98.3
第152期	12月末	7,664	△1.2	182.55	△1.3	0.1	98.3
	(期末)						
	2016年１月15日	7,587	△2.2	179.28	△3.0	0.1	98.3

（注）期末の基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。
（注）当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

（2015年７月16日～2016年１月15日）

作成期間中の基準価額等の推移



第147期首：7,982円
第152期末：7,547円（既払分配金（税込み）：240円）
騰　落　率：△2.5%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）分配金再投資基準価額およびシティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、作成期首（2015年７月15日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は当ファンドの参考指数です。

○基準価額の推移

第147期首7,982円の基準価額は、第152期末に7,547円（分配後）となり、分配金を加味した騰落率は△2.5%となりました。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、世界先進国の信用度の高いソブリン債を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

＜値上がり要因＞
・投資対象国の債券価格が総じて上昇したこと。
・通貨配分戦略がプラスに影響したこと。

＜値下がり要因＞
・アメリカドルやイギリスポンドなどの投資対象通貨が円に対して下落したこと。

投資環境

（海外債券市況）

期間中は、主要国の10年国債金利が総じて低下（債券価格は上昇）しました。

米国では、米国連邦公開市場委員会（FOMC）による利上げへの思惑が錯綜するなか、通期では債券金利は低下傾向となりました。まずFOMCの2015年６月の議事録において海外経済に対する関心が示されたことから、市場は徐々に米国金融当局による利上げ先送りを意識し始め、さらに中国発の世界景気減速懸念が強まったことから期間の半ばにかけて金利は低下傾向を強めました。しかしその後、FOMCによる年内利上げを織り込む動きが再び台頭し、金利は期間の後半に上昇（債券価格は下落）気味に推移しました。12月に利上げが実施されてからは、市場は2016年の利上げペースを見定めるかのように動意に乏しい展開となりましたが、年が明けて株式市場が下落する中で「質への逃避」の動きから債券利回りは再び低下傾向となり、結局期間の初めを下回る水準で期間末を迎えました。

欧州でも、通期では債券金利は低下しました。期間の前半は米国と同様に中国発の世界景気減速懸念によって金利は低下傾向となりました。期間の半ばにおいても、欧米での景況感や金融当局のスタンスの違いから、米国金利が上昇傾向となるのに対して欧州金利は相対的に低位で推移しました。その後、12月上旬に欧州中央銀行（ECB）が発表した追加緩和策が市場の期待を下回ったことから欧州債券も売られる局面を見せ、金利はやや上昇気味に推移しましたが、2016年に入ると米国同様に債券利回りは低下傾向となり、結局期間の初めを下回る水準で期間末を迎えました。

（国内短期金利市況）

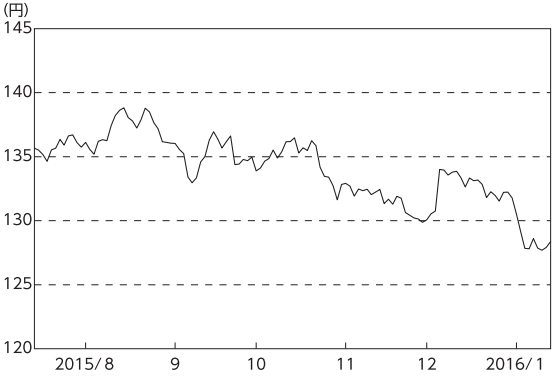
無担保コール翌日物金利は、期間を通じて、概ね0.05～0.09％の範囲で安定的に推移しました。国庫短期証券（ＴＢ）３ヵ月物金利は、期間の初めは、ギリシャの債務問題を背景としたユーロ圏からの資金流入などから－0.07％台で始まりました。その後は、決算期末を控えた金融機関からのＴＢ需要の増加などから低下する局面があったものの、概して0.00％近辺でもみ合いの推移となりました。2015年11月以降は、年末の資金需要などに備えたＴＢ需要の高まりや、日銀によるＴＢの買入れの継続などを背景に－0.11％台まで低下したものの、その後、－0.02％台へ上昇して期間末を迎えました。

（為替市況）

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移

円／ユーロの推移



当ファンドのポートフォリオ

（当ファンド）

当ファンドは、「ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社」の投資助言に則り、「日興・ＧＳ 世界ソブリン・ベビーファンド」受益証券を高位に組み入れ、残余部分は「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券を中心に組み入れて運用を行ないました。

（日興・ＧＳ 世界ソブリン・ベビーファンド）

「日興・ＧＳ 世界ソブリン・ベビーファンド」は、「ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンド」受益証券を高位に組み入れ、信託財産の長期的な成長を図ることを目標としたファンドです。「ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンド」では、以下のような運用がなされました。

「ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社」のアクティブな投資判断に基づき債券と通貨の資産配分比率を機動的に変更しました。

①債券・円短期金融商品における資産間配分

債券と円短期金融商品における資産間配分では、期間の序盤に中立から強気に転じ、その後中盤にやや中立化しましたが、期間の後半に再び強気の度合いを強めました。期間中の資産間配分は本マザーファンドのパフォーマンスにほぼ中立的であったたものと推定されます。

②債券国別配分

期間中における債券国別配分の本マザーファンドのパフォーマンスへの影響は若干のプラスであったものと推定されます。米国に対して期間の序盤に強気とし、また期間の後半に弱気としたことや、英国に対して期間を通じて強気としたことが若干のプラス要因となる一方、ドイツに対して概ね弱気としたことがマイナス要因となり、戦略全体としては若干のプラスとなりました。

③通貨配分

通貨配分は、債券の配分とは独立して行ないます。例えば、米国の債券について強気の見通しであっても、米ドルに対して日本円が強気の見通しであれば、米国債券にはより多く配分する一方で、米ドルの配分を減らすということになります。

期間中の通貨配分戦略は本マザーファンドのパフォーマンスにプラスに影響したものと推定されます。オーストラリアに対して期間の序盤から中盤にかけて弱気とし、期間の終盤に強気に転じたことや、期間の序盤に英国に対して強気としていたことなどはマイナス要因となりましたが、カナダやスイスに対して概ね期間を通じて弱気としていたことなどが主なプラス要因となり、戦略全体としてプラスとなりました。

（マネー・オープン・マザーファンド）

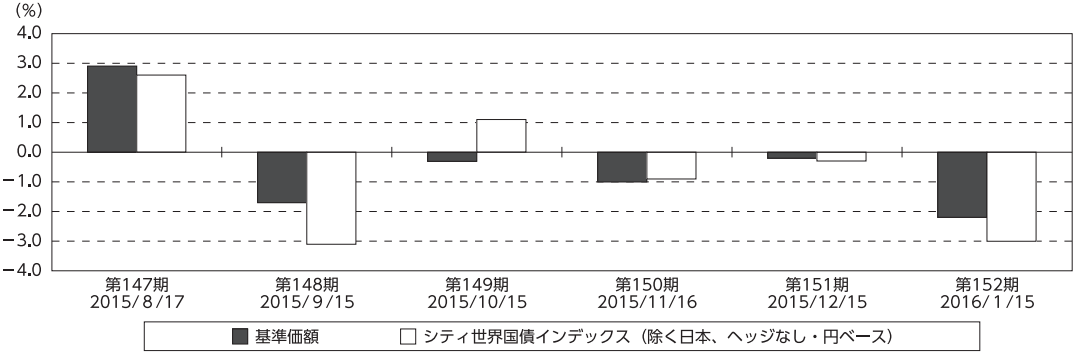
運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、作成期間中の当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

（注）シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は当ファンドの参考指数です。

分配金

第147期～第152期における分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下の通りといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、１万口当たり、税込み）

項　　目	第147期	第148期	第149期	第150期	第151期	第152期
	2015年７月16日～2015年８月17日	2015年８月18日～2015年９月15日	2015年９月16日～2015年10月15日	2015年10月16日～2015年11月16日	2015年11月17日～2015年12月15日	2015年12月16日～2016年１月15日
当期分配金	40	40	40	40	40	40
（対基準価額比率）	0.487%	0.498%	0.501%	0.509%	0.513%	0.527%
当期の収益	39	36	36	36	37	17
当期の収益以外	0	3	3	3	3	22
翌期繰越分配対象額	1,536	1,533	1,530	1,526	1,523	1,500

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、原則として「日興・ＧＳ 世界ソブリン・ベビーファンド」受益証券を高位に組み入れ、残余部分は「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券を中心に組み入れて運用を行ないます。

（日興・ＧＳ 世界ソブリン・ベビーファンド）

主として「ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンド」受益証券に投資し、原則として、その組入比率を高位に保ちます。これにより、安定した収益の確保と信託財産の長期的な成長をめざします。

債券国別、通貨別、資産間の配分については、ファンドにおける組入比率を機動的に見直しつつ運用します。各戦略における対象資産の組入比率は、計量的手法を用いて、マクロ経済やミクロ経済などのデータや資産価格などの市場データについて詳細に評価し、ポートフォリオ全体のリスク・リターン特性が最適なものとなるように決定します。計量的な運用プロセスを一貫して適用していくことを通じて、中長期にわたってより高いリターンを追求することが可能であると考えています。

①債券・円短期金融商品間における資産間配分

資産間配分においては、モメンタムの観点から世界債券に対しては、強気の見通しとしています。

②債券国別配分
　債券国別配分においては、日本や英国に対して強気の見通しとする一方で、ドイツや米国に対して弱気の見通しとしています。日本に対しては、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。英国に対しては、バリューやマクロの観点から強気の見通しとしています。ドイツに対しては、バリューやモメンタムの観点から弱気の見通しとしています。米国に対しては、バリューやマクロの観点から弱気の見通しとしています。

③通貨配分
　通貨配分においては、日本やオーストラリアなどに対して強気の見通しとする一方で、ユーロ圏やカナダに対して弱気の見通しとしています。日本に対しては、マクロや資金フローの観点から強気の見通しとしています。オーストラリアに対しては、資金フローの観点から強気の見通しとしています。ユーロ圏やカナダに対しては、資金フローの観点から弱気の見通しとしています。

　将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（マネー・オープン・マザーファンド）
　引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。
　将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

　今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

○１万口当たりの費用明細

（2015年７月16日～2016年１月15日）

項目	第147期～第152期 金額	第147期～第152期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) 信託報酬	17	0.217	(a)信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(3)	(0.043)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(12)	(0.157)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	(1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	0	0.003	(b)その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	17	0.220	
作成期間の平均基準価額は、7,909円です。			

（注）作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注）その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
（注）各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。
（注）この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合もあります。

○売買及び取引の状況

（2015年７月16日～2016年１月15日）

投資信託証券

銘柄		第147期～第152期 買付 口数	第147期～第152期 買付 金額	第147期～第152期 売付 口数	第147期～第152期 売付 金額
		千口	千円	千口	千円
国内	日興・ＧＳ 世界ソブリン・ベビーファンド	417,307	325,131	1,100,240	858,175

（注）金額は受け渡し代金。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	第147期～第152期			
	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
マネー・オープン・マザーファンド	949	966	2,872	2,923

○利害関係人との取引状況等

（2015年７月16日～2016年１月15日）

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

（2015年７月16日～2016年１月15日）

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

（2015年７月16日～2016年１月15日）

該当事項はございません。

○組入資産の明細

（2016年１月15日現在）

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘柄	第146期末	第152期末		
	口数	口数	評価額	比率
	千口	千口	千円	%
日興・ＧＳ 世界ソブリン・ベビーファンド	11,575,373	10,892,439	8,112,689	98.3
合計	11,575,373	10,892,439	8,112,689	98.3

（注）比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

親投資信託残高

銘柄	第146期末	第152期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
マネー・オープン・マザーファンド	18,112	16,189	16,479

（注）親投資信託の2016年１月15日現在の受益権総口数は、290,685千口です。

○投資信託財産の構成

（2016年１月15日現在）

項　　目	第152期末	
	評　価　額	比　率
	千円	%
投資信託受益証券	8,112,689	97.8
マネー・オープン・マザーファンド	16,479	0.2
コール・ローン等、その他	169,966	2.0
投資信託財産総額	8,299,134	100.0

（注）比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項　　目	第147期末	第148期末	第149期末	第150期末	第151期末	第152期末
	2015年８月17日現在	2015年９月15日現在	2015年10月15日現在	2015年11月16日現在	2015年12月15日現在	2016年１月15日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	**9,355,888,014**	**9,106,549,490**	**9,000,899,854**	**8,727,600,373**	**8,604,129,012**	**8,299,134,965**
コール・ローン等	187,334,942	181,636,669	182,730,598	177,626,900	176,504,745	169,965,684
投資信託受益証券(評価額)	9,140,791,840	8,902,311,004	8,793,988,686	8,529,883,711	8,398,305,776	8,112,689,252
マネー・オープン・マザーファンド(評価額)	18,353,374	17,837,464	17,836,116	17,363,788	17,140,502	16,479,748
未収入金	9,407,543	4,764,073	6,344,155	2,725,678	12,177,694	－
未収利息	315	280	299	296	295	281
(B) 負債	**56,417,036**	**52,811,220**	**55,608,181**	**50,073,292**	**60,289,054**	**47,252,683**
未払収益分配金	45,507,848	45,280,295	45,080,550	44,401,714	44,048,049	43,736,452
未払解約金	7,232,855	4,363,335	7,292,338	2,290,394	13,222,325	398,069
未払信託報酬	3,631,851	3,129,268	3,196,148	3,340,278	2,982,156	3,080,435
その他未払費用	44,482	38,322	39,145	40,906	36,524	37,727
(C) 純資産総額(Ａ－Ｂ)	**9,299,470,978**	**9,053,738,270**	**8,945,291,673**	**8,677,527,081**	**8,543,839,958**	**8,251,882,282**
元本	11,376,962,110	11,320,073,756	11,270,137,652	11,100,428,713	11,012,012,366	10,934,113,012
次期繰越損益金	△ 2,077,491,132	△ 2,266,335,486	△ 2,324,845,979	△ 2,422,901,632	△ 2,468,172,408	△ 2,682,230,730
(D) 受益権総口数	**11,376,962,110口**	**11,320,073,756口**	**11,270,137,652口**	**11,100,428,713口**	**11,012,012,366口**	**10,934,113,012口**
１万口当たり基準価額(C／D)	**8,174円**	**7,998円**	**7,937円**	**7,817円**	**7,759円**	**7,547円**

（注）当ファンドの第147期首元本額は11,571,621,260円、第147～152期中追加設定元本額は161,174,575円、第147～152期中一部解約元本額は798,682,823円です。

（注）１口当たり純資産額は、第147期0.8174円、第148期0.7998円、第149期0.7937円、第150期0.7817円、第151期0.7759円、第152期0.7547円です。

（注）2016年１月15日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は2,682,230,730円です。

○損益の状況

項　　目	第147期 2015年７月16日～ 2015年８月17日	第148期 2015年８月18日～ 2015年９月15日	第149期 2015年９月16日～ 2015年10月15日	第150期 2015年10月16日～ 2015年11月16日	第151期 2015年11月17日～ 2015年12月15日	第152期 2015年12月16日～ 2016年１月15日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	**45,263,901**	**45,033,397**	**44,818,151**	**44,132,634**	**43,762,149**	**21,732,401**
受取配当金	45,256,080	45,026,553	44,811,276	44,125,331	43,755,524	21,726,263
受取利息	7,821	6,844	6,875	7,303	6,625	6,138
(B) 有価証券売買損益	**222,059,492**	**△ 195,686,689**	**△ 65,009,350**	**△ 129,404,022**	**△ 61,292,005**	**△ 206,392,842**
売買益	224,184,213	1,004,361	338,296	924,981	450,106	679,756
売買損	△ 2,124,721	△ 196,691,050	△ 65,347,646	△ 130,329,003	△ 61,742,111	△ 207,072,598
(C) 信託報酬等	**△ 3,676,333**	**△ 3,167,590**	**△ 3,235,293**	**△ 3,381,184**	**△ 3,018,680**	**△ 3,118,162**
(D) 当期損益金（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	**263,647,060**	**△ 153,820,882**	**△ 23,426,492**	**△ 88,652,572**	**△ 20,548,536**	**△ 187,778,603**
(E) 前期繰越損益金	**△2,347,106,696**	**△2,112,516,734**	**△2,296,466,381**	**△2,324,135,360**	**△2,431,113,898**	**△2,472,413,241**
(F) 追加信託差損益金	**51,476,352**	**45,282,425**	**40,127,444**	**34,288,014**	**27,538,075**	**21,697,566**
（配当等相当額）	（ 1,218,875,370）	（ 1,214,222,938）	（ 1,209,984,092）	（ 1,192,900,741）	（ 1,184,727,619）	（ 1,177,462,509）
（売買損益相当額）	（△1,167,399,018）	（△1,168,940,513）	（△1,169,856,648）	（△1,158,612,727）	（△1,157,189,544）	（△1,155,764,943）
(G) 計（Ｄ＋Ｅ＋Ｆ）	**△2,031,983,284**	**△2,221,055,191**	**△2,279,765,429**	**△2,378,499,918**	**△2,424,124,359**	**△2,638,494,278**
(H) 収益分配金	**△ 45,507,848**	**△ 45,280,295**	**△ 45,080,550**	**△ 44,401,714**	**△ 44,048,049**	**△ 43,736,452**
次期繰越損益金（Ｇ＋Ｈ）	**△2,077,491,132**	**△2,266,335,486**	**△2,324,845,979**	**△2,422,901,632**	**△2,468,172,408**	**△2,682,230,730**
追加信託差損益金	51,476,352	45,282,425	40,127,444	34,288,014	27,538,075	21,697,566
（配当等相当額）	（ 1,218,875,370）	（ 1,214,222,938）	（ 1,209,984,092）	（ 1,192,900,741）	（ 1,184,727,619）	（ 1,177,462,509）
（売買損益相当額）	（△1,167,399,018）	（△1,168,940,513）	（△1,169,856,648）	（△1,158,612,727）	（△1,157,189,544）	（△1,155,764,943）
分配準備積立金	528,899,744	521,398,549	514,483,655	501,949,745	493,318,771	463,591,809
繰越損益金	△2,657,867,228	△2,833,016,460	△2,879,457,078	△2,959,139,391	△2,989,029,254	△3,167,520,105

（注）損益の状況の中で**(B)有価証券売買損益**は各期末の評価換えによるものを含みます。
（注）損益の状況の中で**(C)信託報酬等**には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
（注）損益の状況の中で**(F)追加信託差損益金**とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
（注）分配金の計算過程（2015年７月16日～2016年１月15日）は以下の通りです。

項　　目	2015年７月16日～ 2015年８月17日	2015年８月18日～ 2015年９月15日	2015年９月16日～ 2015年10月15日	2015年10月16日～ 2015年11月16日	2015年11月17日～ 2015年12月15日	2015年12月16日～ 2016年１月15日
a. 配当等収益(経費控除後)	44,641,677円	41,865,963円	41,583,172円	40,751,843円	40,743,776円	18,614,579円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円	0円	0円	0円	0円	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	1,218,875,370円	1,214,222,938円	1,209,984,092円	1,192,900,741円	1,184,727,619円	1,177,462,509円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	529,765,915円	524,812,881円	517,981,033円	505,599,616円	496,623,044円	488,713,682円
e. 分配対象収益(a＋b＋c＋d)	1,793,282,962円	1,780,901,782円	1,769,548,297円	1,739,252,200円	1,722,094,439円	1,684,790,770円
f. 分配対象収益(１万口当たり)	1,576円	1,573円	1,570円	1,566円	1,563円	1,540円
g. 分配金	45,507,848円	45,280,295円	45,080,550円	44,401,714円	44,048,049円	43,736,452円
h. 分配金(１万口当たり)	40円	40円	40円	40円	40円	40円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○分配金のお知らせ

	第147期	第148期	第149期	第150期	第151期	第152期
１万口当たり分配金（税込み）	40円	40円	40円	40円	40円	40円

○お知らせ

約款変更について

2015年７月16日から2016年１月15日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

● 当ファンドについて、金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第１項第８号の２に定める信用リスクを適正に管理する方法として、一般社団法人投資信託協会規則に従って委託会社が合理的な方法を定めるべく、2015年10月16日付けにて信託約款に所要の変更を行ないました。また、運用制限を明確化するべく、「派生商品取引」との記載を「デリバティブ取引」へ変更いたしました。（付表）

ご参考　「資産、負債、元本及び基準価額の状況」および「損益の状況」に記載している一般的な項目についての説明。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項　　目	説　　明
(A) **資産**	ファンドの有する財産の合計額
コール・ローン等	金融機関向けの短期貸付資金や短期金融商品等の残高
各有価証券等(評価額)	株や債券、ファンド等の有価証券等の評価額
未収入金	入金予定の有価証券の売却代金等
未収配当金	入金予定の株式等の配当金
未収利息	入金予定の債券等の利息
(B) **負債**	支払い予定額の合計
未払金	支払い予定の有価証券の買付代金等
未払収益分配金	支払い予定の収益分配金
未払信託報酬	支払い予定の信託報酬の金額
(C) **純資産総額(Ａ－Ｂ)**	ファンド全体の評価金額
元本	ファンドの元本部分の残高
次期繰越損益金	純資産総額と元本残高との差額で、翌期に繰越す損益金の合計額
(D) **受益権総口数**	受益者の保有総口数
１(万)口当たり基準価額(Ｃ÷Ｄ)	ファンドの単位当たりの時価

○損益の状況

項　　目	説　　明
(A) **配当等収益**	ファンドが直接受け取った配当金や利息等の合計
受取配当金	ファンドが直接受け取った株式等の配当金の合計
受取利息	ファンドが直接受け取ったコール・ローンや債券等の利息の合計
(B) **有価証券売買損益**	有価証券売買時の損益と評価損益の合計
売買益	各有価証券の売買益と期末評価益の合計
売買損	各有価証券の売買損と期末評価損の合計
(C) **信託報酬等**	信託報酬や保管費用等のファンドの経費
(D) **当期損益金(Ａ＋Ｂ＋Ｃ)**	当期における収支合計
(E) **前期繰越損益金**	前期分の繰越損益金と分配準備積立金の合計から当期中の解約で発生する取り崩し分を控除した金額
(F) **追加信託差損益金**	受益者がファンドに新規に払込んだ金額とファンドの元本との差額(基準価額と単位当たり元本との差額)を調整した金額
(配当等相当額)	(配当等に相当する額)
(売買損益相当額)	(売買損益に相当する額)
(G) **計(Ｄ＋Ｅ＋Ｆ)**	期中の収支の総合計額
(H) **収益分配金**	収益分配金の合計額
次期繰越損益金(Ｇ＋Ｈ)	翌期に繰り越す損益金の合計額(期中の収支の総合計額から収益分配金の金額を引いたもの)
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金
(配当等相当額)	(配当等に相当する額)
(売買損益相当額)	(売買損益に相当する額)
分配準備積立金	分配金を支払うための準備積立金
繰越損益金	繰越損益の合計金額

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申しあげます。

Goldman Sachs **Asset Management**

日興・GS 世界ソブリン・ベビーファンド

追加型投信／海外／債券

第152期末（2016年1月14日）		第147期～第152期	
基準価額	7,413円	騰落率	-2.74%
純資産総額	11,238百万円	分配金合計	220円

（注）騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

第147期（決算日2015年８月14日）
第148期（決算日2015年９月14日）
第149期（決算日2015年10月14日）
第150期（決算日2015年11月13日）
第151期（決算日2015年12月14日）
第152期（決算日2016年１月14日）

作成対象期間:2015年7月15日～2016年1月14日

■本ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	原則として無期限
運用方針	世界各国の債券、通貨を主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。ポートフォリオの構築には、ゴールドマン・サックスが開発した計量モデルを使い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。計量モデルによる分析に基づき、債券・円短期金融商品における資産間配分、債券国別配分、および通貨配分を含む戦略を実施します。
主要投資対象	
本ファンド	ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンドの受益証券
ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンド	債券先物取引、円短期金融商品を含む世界各国の債券、通貨
運用方法・組入制限	①主としてマザーファンドの受益証券に投資し、原則として、その組入比率は高位に保ちます。 ②本ファンド及びマザーファンドにおける組入制限は下記のとおりです。 ・外貨建資産への投資については、特に制限を設けません。 ・株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
分配方針	原則として毎計算期末（毎月14日。休業日の場合は前営業日。）に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の配当等収益および売買損益（評価損益も含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「日興・ＧＳ　世界ソブリン・ベビーファンド」は、このたび、第147期～第152期の決算を行いました。本ファンドは、独自開発の計量運用モデルを用いて世界各国の債券、通貨に分散投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行っております。今期の運用経過等について、以下のとおりご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
お問合せ先：03-6437-6000（代表）
受付時間：営業日の午前9時～午後5時
www.gsam.co.jp

■最近5作成期の運用実績

決算期		基準価額(分配落)	税引前分配金	期中騰落率	ベンチマーク	期中騰落率	債券組入比率	債券先物比率	純資産総額
		円	円	%		%	%	%	百万円
①	123期(2013年８月14日)	7,290	40	△0.4	14,859	△0.6	79.7	△2.6	21,754
	124期(2013年９月13日)	7,290	40	0.5	14,966	0.7	75.7	0.5	21,712
	125期(2013年10月11日)	7,281	40	0.4	15,154	1.3	74.8	20.2	22,015
	126期(2013年11月14日)	7,358	40	1.6	15,456	2.0	75.2	20.5	22,107
	127期(2013年12月13日)	7,738	40	5.7	16,059	3.9	76.0	△25.5	22,827
	128期(2014年１月14日)	7,645	40	△0.7	16,172	0.7	77.3	△26.1	22,276
②	129期(2014年２月14日)	7,534	40	△0.9	16,064	△0.7	78.9	16.5	21,756
	130期(2014年３月14日)	7,544	40	0.7	16,255	1.2	79.3	17.4	21,689
	131期(2014年４月14日)	7,543	40	0.5	16,370	0.7	80.4	21.5	21,280
	132期(2014年５月14日)	7,583	40	1.1	16,469	0.6	80.4	21.9	21,311
	133期(2014年６月13日)	7,508	40	△0.5	16,451	△0.1	81.4	13.9	20,846
	134期(2014年７月14日)	7,492	40	0.3	16,541	0.5	83.1	14.3	20,453
③	135期(2014年８月14日)	7,490	40	0.5	16,706	1.0	84.1	14.6	20,330
	136期(2014年９月12日)	7,687	40	3.2	17,131	2.5	86.1	15.4	20,315
	137期(2014年10月14日)	7,640	40	△0.1	17,178	0.3	86.6	16.2	20,209
	138期(2014年11月14日)	8,160	40	7.3	18,509	7.7	87.9	8.9	21,287
	139期(2014年12月12日)	8,367	40	3.0	19,034	2.8	89.5	15.6	21,440
	140期(2015年１月14日)	8,216	40	△1.3	18,573	△2.4	89.8	15.7	20,853
④	141期(2015年２月13日)	8,075	40	△1.2	18,590	0.1	78.7	40.4	20,274
	142期(2015年３月13日)	7,998	40	△0.5	18,346	△1.3	84.9	33.8	18,517
	143期(2015年４月14日)	7,883	40	△0.9	18,342	△0.0	90.0	22.2	17,257
	144期(2015年５月14日)	7,802	40	△0.5	18,460	0.6	82.9	25.3	16,362
	145期(2015年６月12日)	7,897	40	1.7	18,768	1.7	88.0	12.1	15,663
	146期(2015年７月14日)	7,840	40	△0.2	18,595	△0.9	80.2	19.2	14,706
⑤	147期(2015年８月14日)	8,067	40	3.4	19,076	2.6	83.4	18.0	14,485
	148期(2015年９月14日)	7,889	40	△1.7	18,489	△3.1	85.3	18.6	13,775
	149期(2015年10月14日)	7,802	40	△0.6	18,684	1.1	89.3	27.7	13,045
	150期(2015年11月13日)	7,694	40	△0.9	18,522	△0.9	79.7	30.5	12,371
	151期(2015年12月14日)	7,634	40	△0.3	18,462	△0.3	81.9	56.8	11,957
	152期(2016年１月14日)	7,413	20	△2.6	17,905	△3.0	84.0	46.8	11,238

（注１）基準価額の騰落率は分配金込み。
（注２）ベンチマーク（シティ世界国債インデックス（日本を除く、為替ヘッジなし、円ベース））は、2003年３月27日（設定日）を10,000として指数化しております。
（注３）債券先物比率は買建比率－売建比率。
（注４）本ファンドはマザーファンドを組入れますので、債券組入比率、債券先物比率は、実質比率を記載しております。

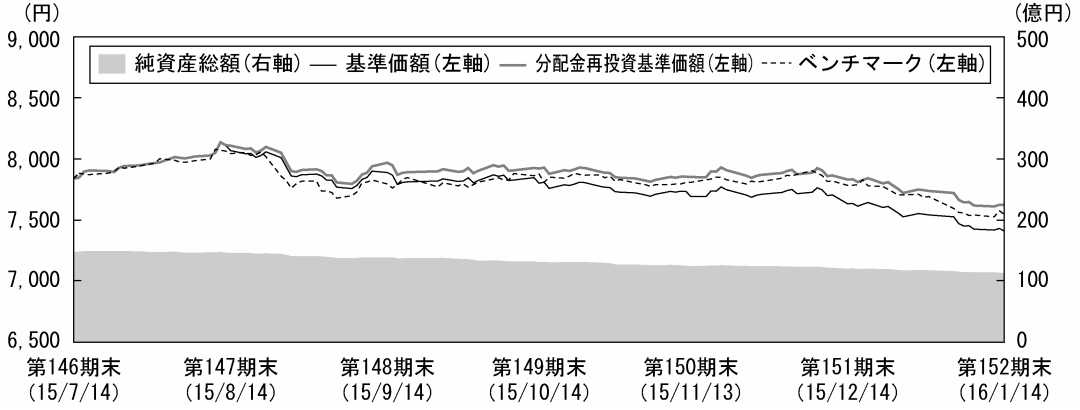
■過去6ヶ月間の基準価額と市況推移

決算期	年　月　日	基準価額		ベンチマーク		債券組入比率	債券先物比率
			騰落率		騰落率		
		円	%		%	%	%
第147期	(期　首)2015年７月14日	7,840	－	18,595	－	80.2	19.2
	７月末	7,972	1.7	18,978	2.1	81.4	14.8
	(期　末)2015年８月14日	8,107	3.4	19,076	2.6	83.4	18.0
第148期	(期　首)2015年８月14日	8,067	－	19,076	－	83.4	18.0
	８月末	7,876	△2.4	18,549	△2.8	83.7	17.4
	(期　末)2015年９月14日	7,929	△1.7	18,489	△3.1	85.3	18.6
第149期	(期　首)2015年９月14日	7,889	－	18,489	－	85.3	18.6
	９月末	7,846	△0.5	18,429	△0.3	86.4	19.0
	(期　末)2015年10月14日	7,842	△0.6	18,684	1.1	89.3	27.7
第150期	(期　首)2015年10月14日	7,802	－	18,684	－	89.3	27.7
	10月末	7,729	△0.9	18,575	△0.6	91.6	27.6
	(期　末)2015年11月13日	7,734	△0.9	18,522	△0.9	79.7	30.5
第151期	(期　首)2015年11月13日	7,694	－	18,522	－	79.7	30.5
	11月末	7,723	0.4	18,584	0.3	79.5	30.6
	(期　末)2015年12月14日	7,674	△0.3	18,462	△0.3	81.9	56.8
第152期	(期　首)2015年12月14日	7,634	－	18,462	－	81.9	56.8
	12月末	7,544	△1.2	18,181	△1.5	82.4	40.1
	(期　末)2016年１月14日	7,433	△2.6	17,905	△3.0	84.0	46.8

（注１）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。
（注２）ベンチマーク（シティ世界国債インデックス（日本を除く、為替ヘッジなし、円ベース））は、2003年３月27日（設定日）を10,000として指数化しております。
（注３）債券先物比率は買建比率－売建比率。
（注４）本ファンドはマザーファンドを組入れますので、債券組入比率、債券先物比率は、実質比率を記載しております。

運用経過

■基準価額等の推移について（2015年７月15日～2016年１月14日）



第147期首：7,840円
第152期末：7,413円
（当作成期中にお支払いした分配金：220円）
騰落率：－2.74%（分配金再投資ベース）

（注１）ベンチマークはシティ世界国債インデックス（日本を除く、為替ヘッジなし、円ベース）です。
（注２）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注３）実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
（注４）分配金再投資基準価額、ベンチマークは、当作成期（以下、「当期」といいます。）の期首の基準価額を起点として指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の7,840円から427円下落し、期末には7,413円となりました。

上昇要因

投資対象国の債券価格が総じて上昇（利回りは低下）したことが、基準価額の上昇要因となりました。また、通貨配分戦略でのプラス寄与なども、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

米ドルや英ポンドなど投資対象国の通貨が対円で下落したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

■投資環境について

＜海外債券市場＞

当期は、主要国の10年国債利回りが総じて低下しました。

米国市場では、利上げへの思惑が錯綜するなか、当期の米国10年国債利回りは低下傾向となりました。ＦＯＭＣ（米連邦公開市場委員会）の６月の議事録において海外経済に対する懸念が示されたことなどから、市場は徐々に利上げ先送りを意識し始めたことや、中国の人民元切り下げをきっかけに世界で景気減速懸念が強まったことなどから期の半ばにかけて利回りは低下傾向となりました。期の後半に入ると、イエレンＦＲＢ（米連邦準備制度理事会）議長の議会証言や10月の雇用統計が市場予想を大幅に上回る改善となったことなどを受け、年内利上げを織り込む動きが再び台頭し、利回りは上昇に転じました。12月に利上げが実施されてからは、市場は2016年の利上げペースを見定めるかのように動意に乏しい展開となりましたが、新年に入り株式市場が下落するなかで質への逃避の動きから利回りは再び低下傾向となり、結局前期末を下回る水準で期を終えました。欧州でも、利回りは低下傾向となりました。期の前半は、米国と同様に中国人民元の切り下げをきっかけとした世界の景気減速懸念などから利回りは低下傾向となりました。期の後半に入ると、米欧での景況感や金融当局のスタンスの違いから、米国金利が上昇傾向となるのに対して欧州金利は相対的に低位で推移しました。その後、12月上旬にＥＣＢ（欧州中央銀行）が発表した追加金融緩和策が市場の期待を下回る内容だったことなどからユーロ参加国の国債が売られる展開となり、利回りはやや上昇気味で推移しましたが、新年に入ると米国同様に利回りは低下傾向となり、結局前期末を下回る水準で期を終えました。

＜外国為替市場＞

当期は、先進国の主要通貨は円に対して下落しました。期初は方向感の定まらない推移となりましたが、８月に入ると中国の人民元引き下げをきっかけに世界的な景気減速懸念が強まるなか世界の株式市場が急落し、リスク回避の動きが強まり円は各通貨に対して急騰しました。その後、期の中盤には、株式市場が落ち着きを取り戻すなかで、それまで下落が著しかったニュージーランド・ドルやオーストラリア・ドルなどは円に対して大きく上昇し、米ドルも年内利上げが織り込まれるなか、堅調な推移となりましたが、他の通貨は概ね横ばいの推移となりました。しかし期の終盤にかけて、原油安の動きが顕著となり商品市況全般に影響が広がるなか、世界景気への悪影響の懸念が強まったことで株式市場が失速し、さらに年明け後に急落すると再びリスク回避の動きが強まり、急速に円高が進みました。なお、原油および商品市況の悪化などを背景に、カナダ・ドルやノルウェー・クローネ、英ポンドなど原油輸出国の通貨が相対的に大きく下落した一方、米ドルやユーロなどは相対的に小幅な下落にとどまりました。

■ポートフォリオについて

＜本ファンド＞

ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンドの組入れを高位に維持することにより、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルによる分析に基づき、債券・円短期金融商品における資産間配分、債券国別配分、および通貨配分を含む戦略を実施しながら、世界各国の債券、通貨への投資を行いました。

＜本マザーファンド＞

ベンチマークの構成比率を基本資産配分比率としながら、市場見通しにより債券と通貨の資産配分を機動的に変更するアクティブ運用を行いました。

債券・円短期金融商品における資産間配分

債券と円短期金融商品における資産間配分では、期の序盤に中立から強気に転じ、その後中盤に強気の度合いを弱めましたが、終盤に再び強気の度合いを強めました。当期の資産間配分は本マザーファンドのパフォーマンスにほぼ中立的であったものと推定されます。

債券国別配分

債券国別配分においては、当期における本マザーファンドのパフォーマンスへの影響は若干のプラスであったものと推定されます。米国に対して期の序盤に概ね強気とし、後半に弱気としたことや、英国に対して期を通じて強気としたことなどがプラス要因となる一方、ドイツに対して弱気としたことがマイナス要因となり、全体としては若干のプラスとなりました。

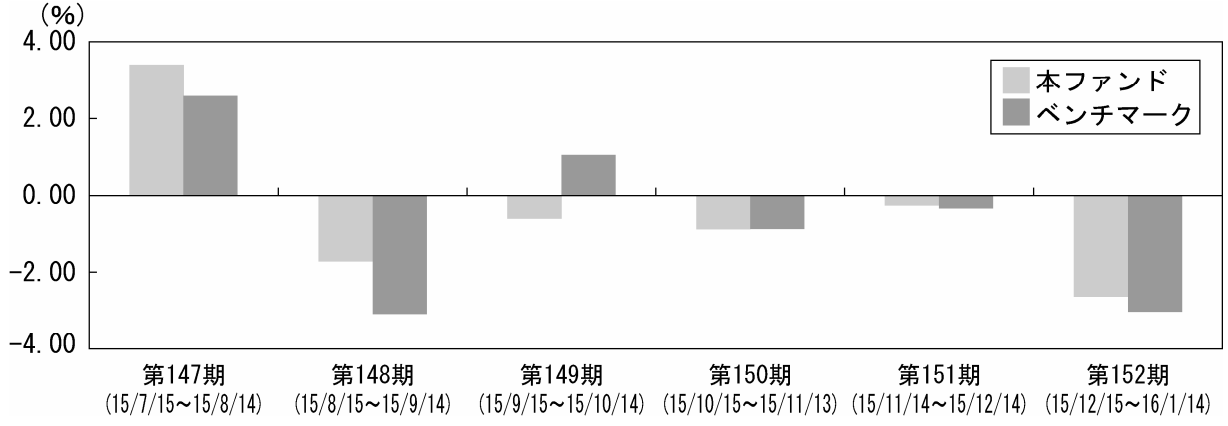
通貨配分

通貨配分は、債券の配分とは独立して行ないます。例えば、米国の債券について強気の見通しであっても、米ドルに対して日本円が強気の見通しであれば、米国債券にはより多く配分する一方で、米ドルの配分を減らすということになります。

当期の通貨配分は本マザーファンドのパフォーマンスにプラスに影響したものと推定されます。オーストラリアに対して期の序盤から中盤にかけて概ね弱気とし、終盤に強気に転じたことや、序盤に英国に対して強気としていたことなどはマイナス要因となりましたが、カナダやスイスに対して期を通じて概ね弱気としていたことなどが主なプラス要因となり、全体としてプラスとなりました。

■ベンチマークとの差異について

＜当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）＞



（注）基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は－2.74％となり、ベンチマーク（－3.71％）を上回りました。

当期においては、通貨配分および債券国別配分がプラス寄与となりました。資産間配分においては、パフォーマンスへの影響はほぼ中立的となりました。

■分配金について

収益分配金（１万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、第147期から第151期は各40円とし、第152期は20円としました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

今後の運用方針について

＜本ファンド＞

今後も引き続き本マザーファンド受益証券の組入れを高位に維持し、世界各国の債券および通貨への投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目指していきます。

＜本マザーファンド＞

資産間、債券国別、通貨の配分については、ファンドにおける組入比率を機動的に見直しつつ運用します。各戦略における対象資産の組入比率は、計量的手法を用いて、マクロ経済やミクロ経済などのデータや資産価格などの市場データについて詳細に評価し、ポートフォリオ全体のリスク・リターン特性が最適なものとなるように決定します。計量的な運用プロセスを一貫して適用していくことを通じて、中長期にわたってより高いリターンを追求することが可能であると考えています。

債券・円短期金融商品における資産間配分

資産間配分においては、世界債券に対して、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。

債券国別配分

債券国別配分においては、日本や英国に対して強気の見通しとする一方で、ドイツや米国に対して弱気の見通しとしています。日本に対しては、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。英国に対しては、バリューやマクロの観点から強気の見通しとしています。ドイツに対しては、バリューやモメンタムの観点から弱気の見通しとしています。米国に対しては、バリューやマクロの観点から弱気の見通しとしています。

通貨配分

通貨配分においては、日本やオーストラリアなどに対して強気の見通しとする一方で、ユーロ圏やカナダなどに対して弱気の見通しとしています。日本に対しては、マクロや資金フローの観点から強気の見通しとしています。オーストラリアに対しては、資金フローの観点から強気の見通しとしています。ユーロ圏やカナダに対しては、資金フローの観点から弱気の見通しとしています。

（上記見通しは2016年１月14日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。）

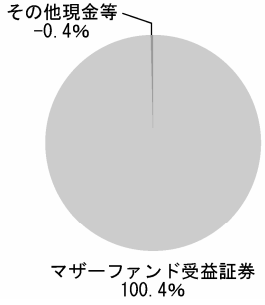
本ファンドのデータ

■本ファンドの組入資産の内容（2016年１月14日現在）

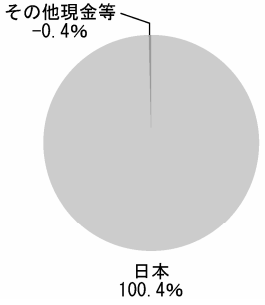
○組入れファンド　（組入銘柄数：１銘柄）

ファンド名	比率
ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンド	100.4%

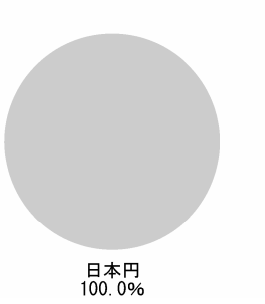
○資産別配分



○国別配分



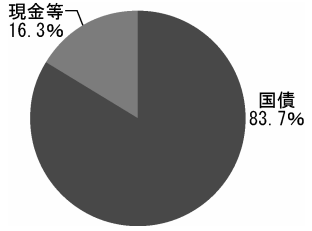
○通貨別配分



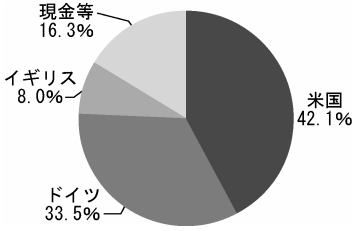
（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

■組入上位ファンドの概要
ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンド（2016年１月14日現在）

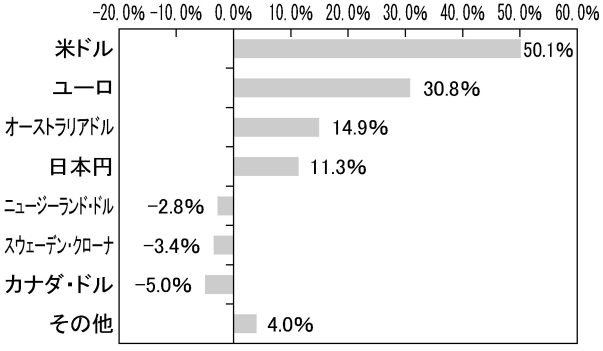
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

（組入銘柄数：７銘柄）

	銘柄	種別	通貨	比率
1	ドイツ国債 6.25% 2024年１月４日	国債	ＥＵＲ	24.7%
2	アメリカ国債 8.75% 2020年８月15日	国債	ＵＳＤ	17.5%
3	アメリカ国債 ８% 2021年11月15日	国債	ＵＳＤ	12.9%
4	アメリカ国債 8.75% 2017年５月15日	国債	ＵＳＤ	11.6%
5	ドイツ国債 6.5% 2027年７月４日	国債	ＥＵＲ	8.8%
6	イギリス国債 4.5% 2042年12月７日	国債	ＧＢＰ	4.3%
7	イギリス国債 8.75% 2017年８月25日	国債	ＧＢＰ	3.8%
8	－	－	－	－
9	－	－	－	－
10	－	－	－	－

（注１）資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位10銘柄のデータは組入れファンドの直近の決算日時点のものです。
（注２）上記の比率は全て組入れファンドの純資産総額に対する割合です。

■1万口当たりの費用明細

項目	第147期～第152期 2015年７月15日～2016年１月14日		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	36円	0.461%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(23)	(0.299)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価
（販売会社）	(12)	(0.157)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付､分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価
（受託会社）	(0)	(0.005)	ファンドの財産の管理､投信会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	1	0.007	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(0)	(0.004)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（プライムブローカー）	(0)	(0.003)	
その他費用	1	0.017	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.006)	海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用
（監査費用）	(1)	(0.007)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.003)	法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
合計	38	0.485	
期中の平均基準価額は7,781円です。			

（注１）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含みます。
（注２）金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注３）比率欄は「１万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況(2015年7月15日から2016年1月14日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

決　　算　　期	第147期～第152期			
	設　　定		解　　約	
	口　数	金　額	口　数	金　額
	千口	千円	千口	千円
ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンド	266,194	490,918	2,051,118	3,773,449

■利害関係人との取引状況等(2015年7月15日から2016年1月14日まで)

利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細(2016年1月14日現在)

親投資信託残高

種　　類	第146期末	第152期末	
	口　数	口　数	評 価 額
	千口	千口	千円
ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンド	8,119,529	6,334,605	11,278,132

■投資信託財産の構成

2016年1月14日現在

項目	第152期末	
	評価額	比率
	千円	%
ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンド	11,278,132	99.2
コール・ローン等、その他	94,243	0.8
投資信託財産総額	11,372,375	100.0

（注１）ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（9,885,416千円）の投資信託財産総額（11,912,631千円）に対する比率は83.0%です。

（注２）外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。なお決算日における邦貨換算レートは１米ドル=117.58円、１カナダドル=81.85円、１ユーロ=127.93円、１英ポンド=169.40円、１スイスフラン=116.84円、１オーストラリアドル=81.60円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

項目	第147期末	第148期末	第149期末	第150期末	第151期末	第152期末
	2015年８月14日	2015年９月14日	2015年10月14日	2015年11月13日	2015年12月14日	2016年１月14日
(A) 資産	**14,652,751,880円**	**13,905,570,315円**	**13,175,921,171円**	**12,506,436,667円**	**12,098,275,268円**	**11,372,375,383円**
ゴールドマン・サックス計量世界債券マザーファンド（評価額）	14,568,943,704	13,856,133,283	13,122,488,830	12,445,946,552	12,029,655,849	11,278,132,460
未収入金	83,808,176	49,437,032	53,432,341	60,490,115	68,619,419	94,242,923
(B) 負債	**167,275,414**	**130,412,805**	**130,628,988**	**134,615,607**	**141,069,499**	**133,845,929**
未払収益分配金	71,821,424	69,840,841	66,880,184	64,315,197	62,655,337	30,323,109
未払解約金	83,808,176	49,437,032	53,432,341	60,490,115	68,619,419	94,242,923
未払信託報酬	11,434,024	10,936,793	10,132,887	9,617,702	9,583,907	9,080,143
その他未払費用	211,790	198,139	183,576	192,593	210,836	199,754
(C) 純資産総額（A－B）	**14,485,476,466**	**13,775,157,510**	**13,045,292,183**	**12,371,821,060**	**11,957,205,769**	**11,238,529,454**
元本	17,955,356,238	17,460,210,442	16,720,046,015	16,078,799,387	15,663,834,323	15,161,554,570
次期繰越損益金	△3,469,879,772	△3,685,052,932	△3,674,753,832	△3,706,978,327	△3,706,628,554	△3,923,025,116
(D) 受益権総口数	**17,955,356,238口**	**17,460,210,442口**	**16,720,046,015口**	**16,078,799,387口**	**15,663,834,323口**	**15,161,554,570口**
1万口当たり基準価額(C/D)	**8,067円**	**7,889円**	**7,802円**	**7,694円**	**7,634円**	**7,413円**

（注）当作成期首元本額は18,758,595,304円、当作成期間（第147期～第152期）中において、追加設定元本額は627,299,438円、同解約元本額は4,224,340,172円です。

■損益の状況

項目	第147期 自2015年７月15日 至2015年８月14日	第148期 自2015年８月15日 至2015年９月14日	第149期 自2015年９月15日 至2015年10月14日	第150期 自2015年10月15日 至2015年11月13日	第151期 自2015年11月14日 至2015年12月14日	第152期 自2015年12月15日 至2016年１月14日
(A) 有価証券売買損益	492,299,823円	△ 229,773,772円	△ 68,535,497円	△ 99,004,431円	△ 22,978,968円	△ 295,654,637円
売買益	505,006,537	9,293,793	4,735,230	3,061,877	1,545,408	5,205,721
売買損	△ 12,706,714	△ 239,067,565	△ 73,270,727	△ 102,066,308	△ 24,524,376	△ 300,860,358
(B) 信託報酬等	△ 11,645,814	△ 11,134,932	△ 10,316,463	△ 9,810,295	△ 9,794,743	△ 9,279,897
(C) 当期損益金(A+B)	480,654,009	△ 240,908,704	△ 78,851,960	△ 108,814,726	△ 32,773,711	△ 304,934,534
(D) 前期繰越損益金	△ 903,002,856	△ 460,037,622	△ 708,420,946	△ 791,276,273	△ 911,515,676	△ 943,307,566
(E) 追加信託差損益金	△ 2,975,709,501	△ 2,914,265,765	△ 2,820,600,742	△ 2,742,572,131	△ 2,699,683,830	△ 2,644,459,907
(配当等相当額)	(366,634,231)	(339,003,151)	(299,778,081)	(263,526,079)	(235,284,688)	(201,650,120)
(売買損益相当額)	(△ 3,342,343,732)	(△ 3,253,268,916)	(△ 3,120,378,823)	(△ 3,006,098,210)	(△ 2,934,968,518)	(△ 2,846,110,027)
(F) 計(C+D+E)	△ 3,398,058,348	△ 3,615,212,091	△ 3,607,873,648	△ 3,642,663,130	△ 3,643,973,217	△ 3,892,702,007
(G) 収益分配金	△ 71,821,424	△ 69,840,841	△ 66,880,184	△ 64,315,197	△ 62,655,337	△ 30,323,109
次期繰越損益金(F+G)	△ 3,469,879,772	△ 3,685,052,932	△ 3,674,753,832	△ 3,706,978,327	△ 3,706,628,554	△ 3,923,025,116
追加信託差損益金	△ 2,994,077,830	△ 2,940,543,381	△ 2,846,684,014	△ 2,764,921,662	△ 2,726,954,566	△ 2,644,459,907
(配当等相当額)	(348,616,612)	(313,048,423)	(274,035,635)	(241,517,696)	(208,330,352)	(201,885,908)
(売買損益相当額)	(△ 3,342,694,442)	(△ 3,253,591,804)	(△ 3,120,719,649)	(△ 3,006,439,358)	(△ 2,935,284,918)	(△ 2,846,345,815)
分配準備積立金	25,092	41,536	31,050	23,686	23,774	3,977,156
繰越損益金	△ 475,827,034	△ 744,551,087	△ 828,100,868	△ 942,080,351	△ 979,697,762	△ 1,282,542,365

(注１) 損益の状況の中で (A) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注２) 損益の状況の中で (B) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
(注３) 損益の状況の中で (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。
(注４) 収益分配金の計算過程において、マザーファンドの配当等収益を繰入れております。

■分配金のお知らせ

決算期	第147期	第148期	第149期	第150期	第151期	第152期
1万口当たり分配金	40円	40円	40円	40円	40円	20円

◇分配金につきましては、販売会社が、自動けいぞく投資契約（販売会社によっては名称が異なる場合もございます）に基づいて、ファンドへの再投資を行っております。

■分配原資の内訳

（単位：円・％、１万口当たり・税引前）

項目	第147期	第148期	第149期	第150期	第151期	第152期
	2015年７月15日 ～2015年８月14日	2015年８月15日 ～2015年９月14日	2015年９月15日 ～2015年10月14日	2015年10月15日 ～2015年11月13日	2015年11月14日 ～2015年12月14日	2015年12月15日 ～2016年１月14日
当期分配金	40	40	40	40	40	20
（対基準価額比率）	0.493	0.504	0.510	0.517	0.521	0.269
当期の収益	29	24	24	26	22	20
当期の収益以外	10	15	15	13	17	－
翌期繰越分配対象額	194	179	163	150	133	135

（注１）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。
また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
（注２）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。
（注３）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

〈お知らせ〉

約款変更について

・一般社団法人 投資信託協会の「信用リスク集中回避のための投資制限に係るガイドライン」に従い、信託約款に分散投資規制に関する保有制限を定めるため、所要の変更を行いました。

運用報告書(全体版)

Goldman Sachs Asset Management

ゴールドマン・サックス 計量世界債券 マザーファンド

親投資信託

第26期(決算日2016年1月14日)

作成対象期間:2015年7月15日～2016年1月14日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
法令・諸規則に基づき、親投資信託(マザーファンド)の期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

■本ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	原則として無期限
運用方針	世界各国の債券、通貨を主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。ポートフォリオの構築には、ゴールドマン・サックスが開発した計量モデルを使い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。計量モデルによる分析に基づき、債券・円短期金融商品における資産間配分、債券国別配分、および通貨配分を含む戦略を実施します。
主要投資対象	債券先物取引、円短期金融商品を含む世界各国の債券、通貨
組入制限	①外貨建資産への投資については特に制限を設けません。 ②株式への投資割合は、信託財産の5%以下とします。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
お問合せ先:03-6437-6000(代表)
受付時間:営業日の午前9時～午後5時
www.gsam.co.jp

■最近5期の運用実績

決　算　期	基準価額	期　中 騰落率	ベンチマーク	期　中 騰落率	債　券 組入比率	債　券 先物比率	純資産 総　額
	円	%		%	%	%	百万円
22期(2014年１月14日)	15,978	7.8	16,172	8.2	76.9	△25.9	22,411
23期(2014年７月14日)	16,238	1.6	16,541	2.3	82.6	14.2	20,579
24期(2015年１月14日)	18,441	13.6	18,573	12.3	89.3	15.6	20,972
25期(2015年７月14日)	18,220	△1.2	18,595	0.1	79.7	19.1	14,793
26期(2016年１月14日)	17,804	△2.3	17,905	△3.7	83.7	46.7	11,277

(注１) ベンチマーク（シティ世界国債インデックス（日本を除く、為替ヘッジなし、円ベース)）は、2003年３月27日（設定日）を10,000として指数化しております。
(注２) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

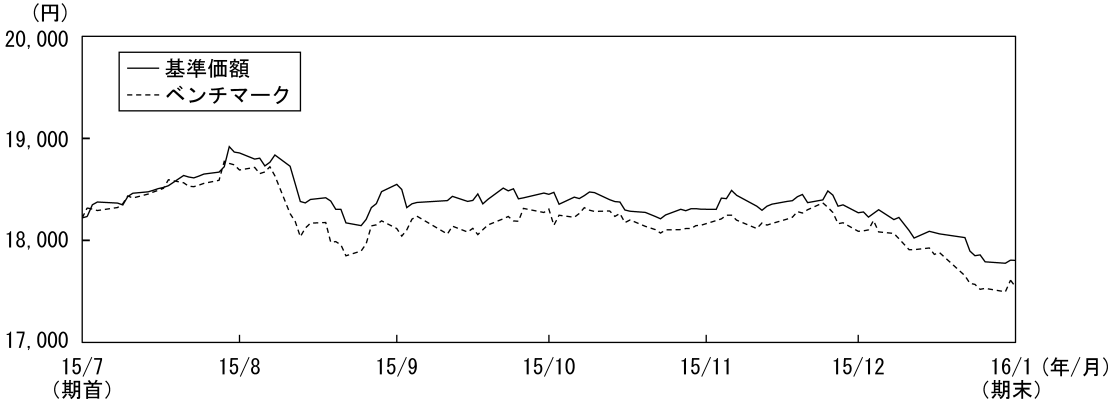
■当期中の基準価額と市況推移

年　月　日	基準価額	騰落率	ベンチマーク	騰落率	債　券 組入比率	債　券 先物比率
(期　首)	円	%		%	%	%
2015年７月14日	18,220	－	18,595	－	79.7	19.1
７月末	18,536	1.7	18,978	2.1	81.4	14.8
８月末	18,418	1.1	18,549	△0.2	83.7	17.4
９月末	18,455	1.3	18,429	△0.9	86.3	19.0
10月末	18,286	0.4	18,575	△0.1	91.6	27.6
11月末	18,382	0.9	18,584	△0.1	79.5	30.5
12月末	18,064	△0.9	18,181	△2.2	82.3	40.1
(期　末)						
2016年１月14日	17,804	△2.3	17,905	△3.7	83.7	46.7

(注１) 騰落率は期首比です。
(注２) ベンチマーク（シティ世界国債インデックス（日本を除く、為替ヘッジなし、円ベース)）は、2003年３月27日（設定日）を10,000として指数化しております。
(注３) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

運用経過

■基準価額等の推移について（2015年７月15日～2016年１月14日）



（注１）ベンチマークはシティ世界国債インデックス（日本を除く、為替ヘッジなし、円ベース）です。
（注２）ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の18,220円から416円下落し、期末には17,804円となりました。

上昇要因

投資対象国の債券価格が総じて上昇（利回りは低下）したことが、基準価額の上昇要因となりました。また、通貨配分戦略でのプラス寄与なども、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

米ドルや英ポンドなど投資対象国の通貨が対円で下落したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

■投資環境について

＜海外債券市場＞

当期は、主要国の10年国債利回りが総じて低下しました。

米国市場では、利上げへの思惑が錯綜するなか、当期の米国10年国債利回りは低下傾向となりました。ＦＯＭＣ（米連邦公開市場委員会）の６月の議事録において海外経済に対する懸念が示されたことなどから、市場は徐々に利上げ先送りを意識し始めたことや、中国の人民元切り下げをきっかけに世界で景気減速懸念が強まったことなどから期の半ばにかけて利回りは低下傾向となりました。期の後半に入ると、イエレンＦＲＢ（米連邦準備制度理事会）議長の議会証言や10月の雇用統計が市場予想を大幅に上回る改善となったことなどを受け、年内利上げを織り込む動きが再び台頭し、利回りは上昇に転じました。12月に利上げが実施されてからは、市場は2016年の利上げペースを見定めるかのように動意に乏しい展開となりましたが、新年に入り株式市場が下落するなかで質への逃避の動きから利回りは再び低下

傾向となり、結局前期末を下回る水準で期を終えました。欧州でも、利回りは低下傾向となりました。期の前半は、米国と同様に中国人民元の切り下げをきっかけとした世界の景気減速懸念などから利回りは低下傾向となりました。期の後半に入ると、米欧での景況感や金融当局のスタンスの違いから、米国金利が上昇傾向となるのに対して欧州金利は相対的に低位で推移しました。その後、12月上旬にＥＣＢ（欧州中央銀行）が発表した追加金融緩和策が市場の期待を下回る内容だったことなどからユーロ参加国の国債が売られる展開となり、利回りはやや上昇気味で推移しましたが、新年に入ると米国同様に利回りは低下傾向となり、結局前期末を下回る水準で期を終えました。

＜外国為替市場＞

当期は、先進国の主要通貨は円に対して下落しました。期初は方向感の定まらない推移となりましたが、８月に入ると中国の人民元引き下げをきっかけに世界的な景気減速懸念が強まるなか世界の株式市場が急落し、リスク回避の動きが強まり円は各通貨に対して急騰しました。その後、期の中盤には、株式市場が落ち着きを取り戻すなかで、それまで下落が著しかったニュージーランド・ドルやオーストラリア・ドルなどは円に対して大きく上昇し、米ドルも年内利上げが織り込まれるなか、堅調な推移となりましたが、他の通貨は概ね横ばいの推移となりました。しかし期の終盤にかけて、原油安の動きが顕著となり商品市況全般に影響が広がるなか、世界景気への悪影響の懸念が強まったことで株式市場が失速し、さらに年明け後に急落すると再びリスク回避の動きが強まり、急速に円高が進みました。なお、原油および商品市況の悪化などを背景に、カナダ・ドルやノルウェー・クローネ、英ポンドなど原油輸出国の通貨が相対的に大きく下落した一方、米ドルやユーロなどは相対的に小幅な下落にとどまりました。

■ポートフォリオについて

ベンチマークの構成比率を基本資産配分比率としながら、市場見通しにより債券と通貨の資産配分を機動的に変更するアクティブ運用を行いました。

<u>債券・円短期金融商品における資産間配分</u>

債券と円短期金融商品における資産間配分では、期の序盤に中立から強気に転じ、その後中盤に強気の度合いを弱めましたが、終盤に再び強気の度合いを強めました。当期の資産間配分は本ファンドのパフォーマンスにほぼ中立的であったものと推定されます。

<u>債券国別配分</u>

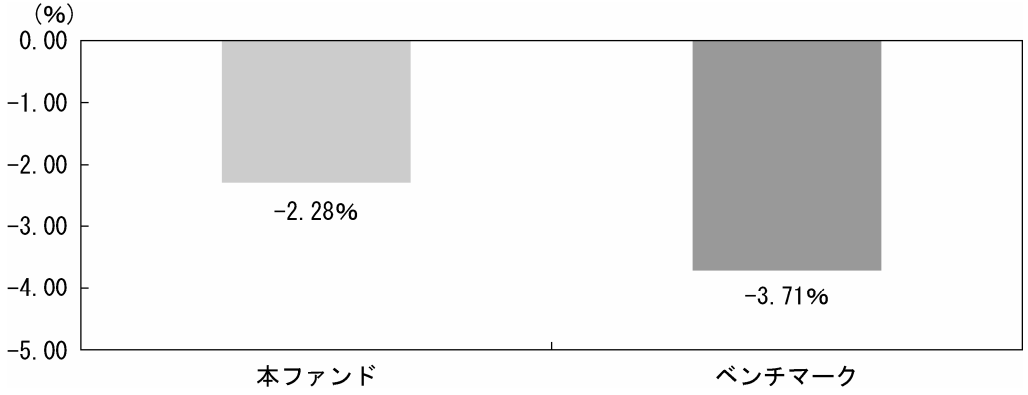
債券国別配分においては、当期における本ファンドのパフォーマンスへの影響は若干のプラスであったものと推定されます。米国に対して期の序盤に概ね強気とし、後半に弱気としたことや、英国に対して期を通じて強気としたことなどがプラス要因となる一方、ドイツに対して弱気としたことがマイナス要因となり、全体としては若干のプラスとなりました。

<u>通貨配分</u>

通貨配分は、債券の配分とは独立して行ないます。例えば、米国の債券について強気の見通しであっても、米ドルに対して日本円が強気の見通しであれば、米国債券にはより多く配分する一方で、米ドルの配分を減らすということになります。

当期の通貨配分は本ファンドのパフォーマンスにプラスに影響したものと推定されます。オーストラリアに対して期の序盤から中盤にかけて概ね弱気とし、終盤に強気に転じたことや、序盤に英国に対して強気としていたことなどはマイナス要因となりましたが、カナダやスイスに対して期を通じて概ね弱気としていたことなどが主なプラス要因となり、全体としてプラスとなりました。

■ベンチマークとの差異について
＜当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）＞



当期の本ファンドのパフォーマンスは－2.28％となり、ベンチマーク（－3.71％）を上回りました。
当期においては、通貨配分および債券国別配分がプラス寄与となりました。資産間配分においては、パフォーマンスへの影響はほぼ中立的となりました。

今後の運用方針について

資産間、債券国別、通貨の配分については、ファンドにおける組入比率を機動的に見直しつつ運用します。各戦略における対象資産の組入比率は、計量的手法を用いて、マクロ経済やミクロ経済などのデータや資産価格などの市場データについて詳細に評価し、ポートフォリオ全体のリスク・リターン特性が最適なものとなるように決定します。計量的な運用プロセスを一貫して適用していくことを通じて、中長期にわたってより高いリターンを追求することが可能であると考えています。

債券・円短期金融商品における資産間配分
資産間配分においては、世界債券に対して、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。

債券国別配分
債券国別配分においては、日本や英国に対して強気の見通しとする一方で、ドイツや米国に対して弱気の見通しとしています。日本に対しては、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。英国に対しては、バリューやマクロの観点から強気の見通しとしています。ドイツに対しては、バリューやモメンタムの観点から弱気の見通しとしています。米国に対しては、バリューやマクロの観点から弱気の見通しとしています。

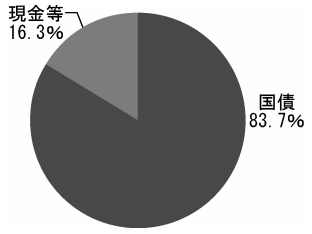
通貨配分
通貨配分においては、日本やオーストラリアなどに対して強気の見通しとする一方で、ユーロ圏やカナダなどに対して弱気の見通しとしています。日本に対しては、マクロや資金フローの観点から強気の見通しとしています。オーストラリアに対しては、資金フローの観点から強気の見通しとしています。ユーロ圏やカナダに対しては、資金フローの観点から弱気の見通しとしています。

（上記見通しは2016年１月14日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。）

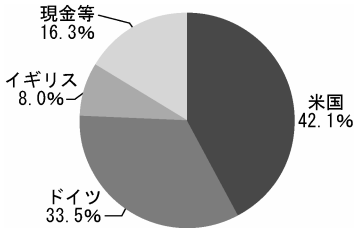
本ファンドのデータ

■本ファンドの組入資産の内容（2016年１月14日現在）

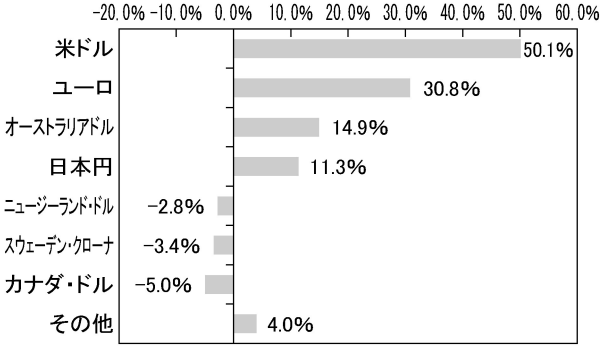
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

（組入銘柄数：７銘柄）

	銘柄	種別	通貨	比率
1	ドイツ国債 6.25% 2024年１月４日	国債	ＥＵＲ	24.7%
2	アメリカ国債 8.75% 2020年８月15日	国債	ＵＳＤ	17.5%
3	アメリカ国債 ８% 2021年11月15日	国債	ＵＳＤ	12.9%
4	アメリカ国債 8.75% 2017年５月15日	国債	ＵＳＤ	11.6%
5	ドイツ国債 6.5% 2027年７月４日	国債	ＥＵＲ	8.8%
6	イギリス国債 4.5% 2042年12月７日	国債	ＧＢＰ	4.3%
7	イギリス国債 8.75% 2017年８月25日	国債	ＧＢＰ	3.8%
8	－	－	－	－
9	－	－	－	－
10	－	－	－	－

（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

■1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2015年７月15日～2016年１月14日		
	金額	比率	
売買委託手数料	1円	0.007%	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(1)	(0.004)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（プライムブローカー）	(1)	(0.003)	
その他費用	1	0.008	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.006)	海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用
（その他）	(0)	(0.001)	証拠金利息の調整金額、支払外国税等
合計	3	0.015	
期中の平均基準価額は18,356円です。			

（注１）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
（注２）金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注３）比率欄は「１万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況（2015年7月15日から2016年1月14日まで）

(1)公社債

			買付額	売付額
外国	アメリカ	国債証券	千米ドル －	千米ドル 6,987
	ユーロ ドイツ	国債証券	千ユーロ －	千ユーロ 5,097
	イギリス	国債証券	千英ポンド －	千英ポンド 911

（注）金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

(2)先物取引の銘柄別取引状況

			買建		売建	
			新規買付額	決済額	新規売付額	決済額
国内	債券先物取引	10年国債標準物	百万円 4,758	百万円 2,829	百万円 885	百万円 2,517
外国	債券先物取引	米国国債先物10年	4,078	4,568	－	－
		カナダ国債先物10年	528	611	－	－
		オーストラリア国債先物10年	350	385	－	－
		英国国債先物10年	4,976	4,768	－	－
		イタリア国債先物10年	3,505	3,948	－	－
		ドイツ国債先物10年	－	－	5,983	6,172
		フランス国債先物10年	2,265	2,634	－	－

(注1) 金額は受渡し代金。
(注2) 外国の取引金額は、各月中の取引額を当該月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計です。

■主要な売買銘柄(2015年7月15日から2016年1月14日まで)

公社債

当期			
買付		売付	
銘柄	金額	銘柄	金額
	千円		千円
－	－	DEUTSCHLAND REP 6.25% 24/1/4	487,545
		US TREASURY N/B 8.75% 20/8/15	357,170
		US TREASURY N/B 8% 21/11/15	261,852
		US TREASURY N/B 8.75% 17/5/15	239,156
		DEUTSCHLAND REP 6.5% 27/7/4	174,519
		UK TREASURY 4.5% 42/12/7	88,341
		UK TREASURY 8.75% 17/8/25	79,990

(注) 金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

■利害関係人との取引状況等(2015年7月15日から2016年1月14日まで)

利害関係人との取引はありません。
(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細(2016年1月14日現在)

(1)公社債

A 債券種類別開示

外国(外貨建)公社債

区分	当期末							
	額面金額	評価額		組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
	千米ドル	千米ドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ	32,010	40,382	4,748,152	42.1	－	12.9	17.5	11.6
ユーロ	千ユーロ	千ユーロ						
ドイツ	19,489	29,557	3,781,342	33.5	－	33.5	－	－
	千英ポンド	千英ポンド						
イギリス	4,243	5,344	905,383	8.0	－	4.3	－	3.8
合計	－	－	9,434,879	83.7	－	50.7	17.5	15.4

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。
(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

B 個別銘柄開示

外国(外貨建)公社債

種類	銘柄名	当期末				
		利率	額面金額	評価額		償還年月日
				外貨建金額	邦貨換算金額	
	(アメリカ)	%	千米ドル	千米ドル	千円	
国債証券	US TREASURY N/B 8%	8.0	9,168	12,386	1,456,395	2021/11/15
	US TREASURY N/B 8.75%	8.75	10,111	11,171	1,313,573	2017/5/15
	US TREASURY N/B 8.75%	8.75	12,731	16,824	1,978,182	2020/8/15
小計		－	－	－	4,748,152	－
	(ユーロ…ドイツ)		千ユーロ	千ユーロ		
国債証券	DEUTSCHLAND REP 6.25%	6.25	14,774	21,781	2,786,501	2024/1/4
	DEUTSCHLAND REP 6.5%	6.5	4,715	7,776	994,841	2027/7/4
小計		－	－	－	3,781,342	－
	(イギリス)		千英ポンド	千英ポンド		
国債証券	UK TREASURY 4.5%	4.5	2,043	2,844	481,873	2042/12/7
	UK TREASURY 8.75%	8.75	2,200	2,500	423,509	2017/8/25
小計		－	－	－	905,383	－
合計		－	－	－	9,434,879	－

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(2)先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別		当期末	
		買建額	売建額
国内	１０年国債標準物	百万円 1,941	百万円 －
外国	イタリア国債先物１０年	1,590	－
	ドイツ国債先物１０年	－	2,309
	米国国債先物１０年	1,460	－
	英国国債先物１０年	1,227	－
	カナダ国債先物１０年	198	－
	フランス国債先物１０年	1,006	－
	オーストラリア国債先物１０年	146	－

(注１) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。
(注２) －印は組入れなし。

■投資信託財産の構成

2016年1月14日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
公社債	9,434,879	79.2
コール・ローン等、その他	2,477,752	20.8
投資信託財産総額	11,912,631	100.0

(注１) 当期末における外貨建純資産（9,885,416千円）の投資信託財産総額（11,912,631千円）に対する比率は83.0%です。
(注２) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。なお決算日における邦貨換算レートは１米ドル=117.58円、１カナダドル=81.85円、１ユーロ=127.93円、１英ポンド=169.40円、１スイスフラン=116.84円、１オーストラリアドル=81.60円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

項目		当期末 2016年１月14日
(A)	資産	30,673,256,286円
	コール・ローン等	1,692,900,374
	公社債（評価額）	9,434,879,044
	未収入金	19,285,967,084
	未収利息	124,204,341
	差入委託証拠金	135,305,443
(B)	負債	19,395,392,018
	未払金	19,301,149,095
	未払解約金	94,242,923
(C)	純資産総額（A－B）	11,277,864,268
	元本	6,334,605,965
	次期繰越損益金	4,943,258,303
(D)	受益権総口数	6,334,605,965口
	1万口当たり基準価額(C/D)	17,804円

■損益の状況

項目		当期 自2015年７月15日 至2016年１月14日
(A)	配当等収益	294,959,385円
	受取利息	294,959,385
(B)	有価証券売買損益	△ 675,404,023
	売買益	1,750,162,988
	売買損	△ 2,425,567,011
(C)	先物取引等取引損益	148,807,266
	取引益	347,829,682
	取引損	△ 199,022,416
(D)	信託報酬等	△ 1,361,724
(E)	当期損益金（A＋B＋C＋D）	△ 232,999,096
(F)	前期繰越損益金	6,673,864,641
(G)	追加信託差損益金	224,723,870
(H)	解約差損益金	△ 1,722,331,112
(I)	計（E＋F＋G＋H）	4,943,258,303
	次期繰越損益金（I）	4,943,258,303

（注１）損益の状況の中で（B）有価証券売買損益および（C）先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。
（注２）損益の状況の中で（G）追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。
（注３）損益の状況の中で（H）解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。
（注４）期首元本額は8,119,529,113円、当作成期間中において、追加設定元本額は266,194,873円、同解約元本額は2,051,118,021円です。
（注５）元本の内訳　日興・ＧＳ世界ソブリン・ベビーファンド　6,334,605,965円

〈お知らせ〉
約款変更について
・一般社団法人 投資信託協会の「信用リスク集中回避のための投資制限に係るガイドライン」に従い、信託約款に分散投資規制に関する保有制限を定めるため、所要の変更を行いました。

マネー・オープン・マザーファンド

運用報告書

第13期（決算日　2016年１月15日）
（2015年１月16日～2016年１月15日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2003年３月28日から原則無期限です。
運用方針	公社債への投資により、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要運用対象	わが国の国債および格付の高い公社債を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行ないません。 外貨建資産への投資は行ないません。

ファンド概要

わが国の国債および格付の高い公社債に投資を行ない、利息等収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

日興アセットマネジメント

＜936243＞

【運用報告書の表記について】
・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近５期の運用実績

決算期	基準価額		債券組入比率	純資産総額
		期中騰落率		
	円	%	%	百万円
９期(2012年１月16日)	10,156	0.1	79.1	467
10期(2013年１月15日)	10,165	0.1	79.0	771
11期(2014年１月15日)	10,173	0.1	79.3	895
12期(2015年１月15日)	10,177	0.0	80.1	674
13期(2016年１月15日)	10,179	0.0	71.0	295

(注) 元本の安全性を優先した運用を行なっているため、ベンチマークおよび適切な参考指数となる指標はございません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		債券組入比率
		騰落率	
(期　首)	円	%	%
2015年１月15日	10,177	－	80.1
１月末	10,178	0.0	82.6
２月末	10,178	0.0	86.4
３月末	10,178	0.0	80.7
４月末	10,178	0.0	85.5
５月末	10,178	0.0	85.3
６月末	10,178	0.0	75.9
７月末	10,178	0.0	84.7
８月末	10,178	0.0	87.8
９月末	10,179	0.0	54.6
10月末	10,179	0.0	60.3
11月末	10,179	0.0	64.2
12月末	10,179	0.0	66.3
(期　末)			
2016年１月15日	10,179	0.0	71.0

(注) 騰落率は期首比です。

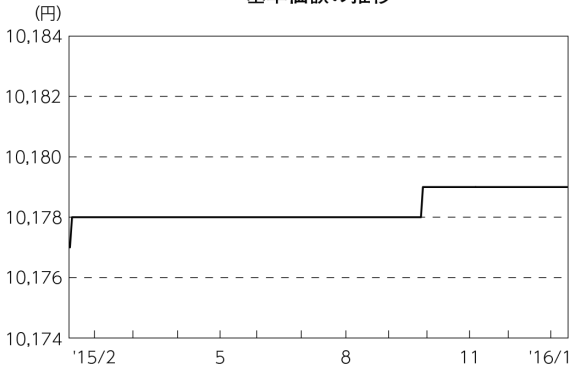
○運用経過

（2015年１月16日～2016年１月15日）

基準価額の推移

期首10,177円の基準価額は、期末に10,179円となり、騰落率は＋0.0%となりました。

基準価額の推移



期　首	期中高値	期中安値	期　末
2015/01/15	2015/09/29	2015/01/16	2016/01/15
10,177円	10,179円	10,178円	10,179円

基準価額の変動要因

期中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

＜値上がり要因＞
・利息収入などを得たこと。

(国内短期金利市況)
期中、無担保コール翌日物金利は、概ね0.05～0.09%の範囲で安定的に推移しました。国庫短期証券（ＴＢ）３ヵ月物金利は、期首から2015年10月にかけては、１月に日銀によるＴＢ買入れ額の一時的減少や、７月にギリシャの債務問題を背景としたユーロ圏からの資金流入などから低下する局面があったものの、概して0.00%近辺でもみ合いの推移となりました。11月以降は、年末の資金需要などに備えたＴＢ需要の高まりや、日銀によるＴＢの買入れの継続などを背景に－0.11%台まで低下したものの、その後、－0.02%台へ上昇して期末を迎えました。

ポートフォリオ

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

○今後の運用方針

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○１万口当たりの費用明細

(2015年１月16日～2016年１月15日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2015年１月16日～2016年１月15日)

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	国債証券	3,270,833	1,770,849
			(1,830,000)

(注) 金額は受け渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)
(注) ( )内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。
(注) 債券現先を含めています。

○利害関係人との取引状況等

(2015年１月16日～2016年１月15日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2016年１月15日現在)

国内公社債

(A)国内(邦貨建)公社債　種類別開示

区分	当期末						
	額面金額	評価額	組入比率	うちＢＢ格以下組入比率	残存期間別組入比率		
					５年以上	２年以上	２年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	210,000	209,999	71.0	－	－	－	71.0
	(210,000)	(209,999)	(71.0)	(－)	(－)	(－)	(71.0)
合計	210,000	209,999	71.0	－	－	－	71.0
	(210,000)	(209,999)	(71.0)	(－)	(－)	(－)	(71.0)

(注) ( )内は非上場債で内書きです。
(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)国内(邦貨建)公社債　銘柄別開示

銘柄	当期末			
	利率	額面金額	評価額	償還年月日
国債証券	%	千円	千円	
第564回国庫短期証券	－	30,000	29,999	2016/1/25
第579回国庫短期証券	－	180,000	179,999	2016/4/7
合計		210,000	209,999	

○投資信託財産の構成

(2016年1月15日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
公社債	209,999	68.8
コール・ローン等、その他	95,319	31.2
投資信託財産総額	305,318	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年１月15日現在)

項　　目	当 期 末
	円
(A) 資産	305,318,956
コール・ローン等	95,318,993
公社債(評価額)	209,999,806
未収利息	157
(B) 負債	9,422,200
未払解約金	9,422,200
(C) 純資産総額(Ａ－Ｂ)	295,896,756
元本	290,685,921
次期繰越損益金	5,210,835
(D) 受益権総口数	290,685,921口
１万口当たり基準価額(Ｃ／Ｄ)	10,179円

(注) 当ファンドの期首元本額は662,668,721円、期中追加設定元本額は100,199,657円、期中一部解約元本額は472,182,457円です。

(注) 2016年１月15日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(トルコリラコース)	133,577,984円
・世界銀行債券ファンド(毎月分配型)	33,024,059円
・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(米ドルコース)	30,485,011円
・資源ファンド(株式と通貨)ブラジルレアル・コース	28,259,449円
・日興・ＧＳ 世界ソブリン・ファンド(毎月分配型)	16,189,948円
・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(ブラジルレアルコース)	10,624,808円
・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(円ヘッジコース)	10,282,730円
・日興・ＧＳ 世界ソブリン・ファンド ＶＡ(適格機関投資家転売制限付)	6,381,867円
・資源ファンド(株式と通貨)南アフリカランド・コース	6,211,451円
・日興・アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド	5,123,058円
・資源ファンド(株式と通貨)オーストラリアドル・コース	3,268,781円
・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(メキシコペソコース)	2,529,297円
・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(南アフリカランドコース)	2,047,717円
・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド資産成長型(米ドルコース)	784,170円
・シティ・カントリー・セレクター	539,601円
・資源ファンド(株式と通貨)米ドル・コース	380,654円
・上場インデックスファンド中国Ａ株(パンダ)CSI300	198,295円
・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(インドルピーコース)	175,477円
・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(対米ドル・ブラジルレアルコース)	170,437円
・高金利通貨コレクション	147,125円
・資源ファンド(株式と通貨)トルコリラ・コース	68,265円
・資源ファンド(株式と通貨)メキシコペソ・コース	43,884円
・資源ファンド(株式と通貨)米ドル・コース(資産成長型)	37,698円
・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(対米ドル・アジア通貨バスケットコース)	31,919円
・資源ファンド(株式と通貨)円コース	28,683円
・日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(インドネシアルピアコース)	26,685円
・上場インデックスファンド海外債券(Citigroup WGBI)毎月分配型	19,740円
・資源ファンド(株式と通貨)ブラジルレアル・コース(資産成長型)	14,841円
・資源ファンド(株式と通貨)南アフリカランド・コース(資産成長型)	12,287円

(注) １口当たり純資産額は1.0179円です。

○損益の状況 (2015年１月16日～2016年１月15日)

項　　目	当　　期
	円
(A) 配当等収益	76,642
受取利息	76,642
(B) 有価証券売買損益	511
売買益	511
(C) 当期損益金(Ａ＋Ｂ)	77,153
(D) 前期繰越損益金	11,762,250
(E) 追加信託差損益金	1,784,555
(F) 解約差損益金	△ 8,413,123
(G) 計(Ｃ＋Ｄ＋Ｅ＋Ｆ)	5,210,835
次期繰越損益金(Ｇ)	5,210,835

(注) 損益の状況の中で**(B)有価証券売買損益**は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で**(E)追加信託差損益金**とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で**(F)解約差損益金**とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2015年１月16日から2016年１月15日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。